

## 教職教育センタージャーナルの創刊を祝って

教職教育センター所長 古田 恒 輔

教職教育センタージャーナルは、神戸学院大学における教職教育に関する研究成果や実践報告を収集・蓄積・発信することにより、組織的な教員養成に寄与することを目的として創刊されました。創刊号には6編の論文が集まりましたが、特に在学中の4年次生や本学の学部を卒業して大学院に通う諸君から投稿いただいたことは、本ジャーナルの特徴として誇れるのではないかと考えています。

発刊の母体たる教職教育センターは2013年4月に組織として発足しました。また、同年10月に元現職の教員が学生の学びをサポートし、学生同士が学び合うことのできる「教職教育サポート室」を6号館5階に作りました。さらに、2014年4月には、教科教育法における模擬授業や、学生の自主勉強に使用可能な「模擬教室」を6号館3階に作りました。これらの組織や設備を学生が主体的に利用し、教職を志す者として切磋琢磨する状況が整いつつあります。

中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(2012年8月)では、「学び続ける教員」というキーワードが示されています。このキーワードは、養成機関である大学での学びと、現職となってからの研鑽が分断されることなく、教職生活全体を通して教員として成長し続けようというメッセージを含んでいます。大学は教職生活が始まる前の養成段階であり、どういう資質能力を備えた学生を現場に送り出せるかという点で、大きな責任を負っています。この責任を果たすため、教職教育センターを中心に、全学的な体制のもと引き続き学生を支援していきます。